

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>(ア) 市民研修生 15 名及び教官養成研修生 10 名は、所定の全課程を修了し、日本の整備士に準じた高い知識と技術を身に付け、東ティモール整備業界の技術力向上の底上げに寄与する能力を有する整備士を輩出する事が出来た (達成率 100%)。</p> <p>(イ) 教官養成研修生は、最新技術や整備指導方法を習得し、10 名の内、4 名がディリ技術学校 (DIT)、3 名がドンボスコ訓練学校、2 名が国立職業訓練ティバール校の研修に携わる事で整備士養成機関の自立に貢献し、残り 1 名は大手整備工場の主任整備指導者として整備士育成に従事している (達成率 100%)。</p>
(2) 事業内容	<p>(ア) 市民研修生 15 名に対する整備士研修、及び教官養成研修生 10 名に対する整備士指導者研修を計画通り実施した。 教官養成研修生全 10 名の内、DIT 助手 4 名に対しては、今後の DIT 自動車整備士養成研修が彼ら自身により運営可能となる事を目的に、教官養成研修生として各種の指導者研修を実施した。</p> <p>(イ) 教官養成研修は、日本の 3 級整備士の復習から 2 級整備士の高度な内容まで、また教育専門科目として教育実習や教育技法に至るまで、事業計画に沿った研修を実施した。</p> <p>(ウ) 国立人材開発機関 (INDIMO) の責任者や専門家グループに対して我々の研修現場を案内したり、整備士教育に関する意見交換や各種アドバイスをを行い、なお且つ我々が作成した各種研修資料の提供等により東ティモール自動車整備士資格制度の制定作業を全面的に支援した。</p> <p>(エ) 5 月に第 1 回ワークショップを DIT 校で開催し (参加者約 150 名)、7 月に第 2 回目を CANOSA 学園で開催 (参加者約 300 名)、10 月に第 3 回目を PAZ 大学で開催 (参加者約 300 名) する事で、広く一般市民に交通事故未然防止の為に安全点検や日常整備の重要性を認識させ、同時に簡易整備方法も指導した。</p> <p>(オ) 第 3 期研修終了後に全期統合 OB 会を開催し、第 1 期から第 3 期までの OB 計 40 名参加のもと自己紹介や情報交換等を行って親睦を深め、OB 間の相互扶助や東ティモール整備業界を発展させる為の組織化を整えた。</p>

<p>(3) 達成された成果</p>	<p>(ア) a. 第3期の直接裨益者数は、市民研修生 15 名および教官養成研修生 10 名であり、当初計画を達成した。</p> <p>b. 市民研修生および教官養成研修生に 1 名の落伍者も無く、研修生の 100%が本研修を卒業した。</p> <p>c. 教官養成研修生は DIT 助手の 4 名が DIT で指導を行い、他の 5 名が各職業訓練学校の指導員となり、残りの 1 名が大手整備工場の主任整備指導者として就職し、半数以上が整備指導者になる目標は 100%達成した。</p> <p>(イ) 日本人専門家から整備技術を学び取る過程で、研修生の生活態度に改善がみられた。毎朝全員で朝礼を行うことで、研修生は遅刻をしないようになり、時間厳守の意識を根付かせた。毎朝実習場を清掃することや部品の片付けをすることで、整理・整頓が身に付いた。また、研修生が整備手順を誤った場合等は、日本人専門家はなぜミスが起こったかその原因を考えさせ、過ちを素直に認めることを求めた。これらの指導により、整備技術とは別の、就職後の社会人としての重要な資質が身に着いた。</p> <p>(ウ) 第3期事業開始時に JDRAC 撤退後の自主運営に関して DIT 校長の再確約を取り、DIT 助手の教官研修も計画通り終了した。</p> <p>(エ) DIT が国家整備士資格認定校となる為に、来年度から約 30 名以上の整備士養成研修計画を国立人材開発機関 (INDIMO) に提出しており、年間 15 名以上の自動車整備士を養成する目標は間違い無く達成可能である。</p> <p>(オ) 国立人材開発機関 (INDIMO) の 3 度に渡る見学来訪に合わせて意見交換会を開催し、日本の整備士資格制度に基づくアドバイスや研修資料等を提供した結果、これらを参考に整備士資格制度の原案が改良され、先ずは自動車整備士国家資格の初級制度制定を目的に、関係省庁内にて協議中である。</p> <p>(カ) 合計 3 回のワークショップを DIT 校・CANOSA 学園・PAZ 大学で開催し、各回の目標来場者 100 名に対して、全てそれを上回る 150 名から 300 名の来場者を迎え、日常点検や定期整備の重要性を一般市民に認識させる事で事故の未然防止に大きな影響を与えると共に、本事業の裨益効果拡大にも貢献出来た。</p> <p>(キ) 第1期から第3期までの統合 OB 会を 11 月 29 日に開催し、同窓の自動車整備従事者を組織化する事で、就労問題等への相互扶助体制を整え、将来は起業支援も視野に、技術や生活向上の機会を得る場として環境を整える事が出来た。</p>
--------------------	--

<p>(4) 持続発展性</p>	<p>(ア) 研修終了後に研修用資機材の譲渡式を、DIT 自身が自動車整備士養成研修を運営する契約書も取り交わし、なお且つ東ティモール初の整備士国家資格認定校となる為の研修計画も国立人材開発機関 (INDIMO) へ提出済の為、DIT が職業訓練コースを継続する見込みである。</p> <p>(イ) 定期的に DIT 自動車整備士研修状況を確認したり、指導すると共に、必要に応じて日本から専門家を派遣し、指導する事も考慮する。</p> <p>(ウ) 市民研修生の半数以上が整備工場実習先の正社員を目指して各工場の見習い社員となり、残りの研修生は他の整備工場や出身地で就職予定であり、彼らが今後整備経験を積み実力を付ける事で、外国企業への依存体質から脱却し、東ティモール整備業界が自立する為の原動力として活躍予定である。</p> <p>(エ) 自動車整備教科書や点検管理マニュアル等を作成した事により、東ティモールでの自動車整備教本が充実し、これらに基づいた正しい自動車整備技術が広く整備業界に普及する事で、適切な自動車整備・管理等が行われる。</p> <p>(オ) 第 1 期から第 3 期までの統合 OB 会を母体とし、毎年卒業生を迎え入れて組織拡大を図り、技術や就職等の相互扶助体制を確立する事でメンバーの定着化を促し、近い将来は整備業界に発言力を持つ組織へと発展させる。</p>
------------------	--